

(前頁より)

また、特別講演として、大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部部長・病院教授である中島和江先生から「医療安全における新たな課題～ノンテクニカルスキルへのチャレンジ～」について講義していただき、参加者一同、医療安全に対する意識を一層高めることができ、有意義な学術集会でした。

(文責：(独)労働者健康福祉機構福島労災病院

事務局次長 万崎文彦)

## 第7回鳥取支部学術集会

学術集会会長：鳥取県立厚生病院病院長 前田迪郎



会場風景

梅雨明けの待ち遠しい小雨の中、2010年7月3日(土)、鳥取県中部にあります「倉吉未来中心」にて第7回鳥取支部学術集会を開催しました。登録参加者は239

名、スタッフ約60名でした。大会テーマは、「高齢化社会と地域医療～情報の共有化を求めて」です。内容は以下の通りです。特別講演「認知症の病態と医療マネジメント」(鳥取大学医学部脳神経内科教授 中島健二先生)に続き、シンポジウム「急性期病院における高齢者対策と地域連携～認知症を中心に」では、医師、認定看護師、社会福祉士、介護支援専門員の4名のシンポジストにより、それぞれの立場から、認知症を合併した急性疾患患者のかかえる種々の問題と対応策について論じて頂き、新たな視点からのマネジメントと連携の重要性を認識させられました。ランチョンセミナー「在宅糖尿病患者を支える新しい糖尿病治療」(鳥取大学医学部保健学科教授 池田 匡先生)の後、パネルディスカッション「地域医療連携におけるITの活用～地域医療再生のためのITネットワーク」では、テレパソロジー、遠隔画像システム、電子カルテ相互参照システム、周産期医療情報ネットワーク、地域医療情報ネットワークシステム開発と5名のパネリストにより県内での先進的な取組が紹介され、今後のITネットワーク化への礎となりました。その後、一般演題(口演)33題、一般演題(ポスター展示)15題、クリティカルパス展示9題が2会場で発表され、9時30分に始まった学術集会も18時の終了まで、熱心な討論が行われ、盛会の内に終わりました。

(文責：鳥取県立厚生病院副院長 阿藤孝二郎)

## 分科会等開催案内

### 2010年度 第1回医療安全分科会

テーマ：医療安全のための根本原因分析とチーム医療のスキル

2010年度診療報酬改定ではいくつかの項目でチーム医療を実践している施設に加算がつけました。また2009年8月から厚生労働省にて「チーム医療の推進に関する検討会」を開催し、報告書が策定されました。報告書を基に今年度はチーム医療の話し合いが具体的に進められています。

欧米では1970年代より、職種間の協働が医療の質に関連するとの報告も多数あり、連携の重要性が指摘されてまいりました。

1988年、WHOは連携の重要性により、協働のための基盤教育を推奨(報告書：Learning Together to Work Together for Health)しました。このようなことを踏まえて今回の医療安全分科会では、医療をチームで行うために必要な「システム」「連携」をキーワードに行います。一日目は事例を分析し、医療安全に資するシステムの課題を見つける方法を習得し、二日目は福田憲一郎氏によるチームSTEPPS：エビデンスに基づいたチームトレーニングを実施します。

昨年も多くの方々が参加されましたが、今年も是非、医療安全をご一緒に学びましょう。

なお、2日間全課程に参加された方には参加証明書(12時間)を発行致します。ふるってご参加くださいますようご案内致します。

- ・日 時 2010年10月30日(土)10:00～10月31日(日)16:30
- ・会 場 社団法人日本看護協会 地下2階JNAホール  
(〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2)

#### ・プログラム

#### 第1日目 10月30日(土)

10:00 受付開始

10:50 開会

日本医療マネジメント学会理事長 宮崎久義

11:00～11:20

「日本医療マネジメント学会の医療安全対策への関わり」

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所教授

武藤正樹

11:20～11:50 基調講演

「医療安全の現状」

厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長補佐

高崎洋介

11:50～12:00 質疑応答

12:00～13:00 昼食